

いぐさ「夕風」原草の着花茎の混入割合を低減する選別方法

いぐさ優良品種「夕風」原草は、長さ選別の後、茎長が短い(120cm 未満)原草を先枯長により選別を行うことによって、着花茎を集約することができる。

農業研究センターい業研究所加工研究室 (担当者: 中島 雄)

研究のねらい

いぐさ優良品種「夕風」は硬くて良質な畳表が生産可能であるが、他品種に比べ着花茎が多く、また花が大きいと畳表に着花茎が混入すると目立ち、畳表の品質が低下する。

そこで、「夕風」のより高品質な原草を確保するための選別技術を確立する。

研究の成果

1. 「夕風」原草は、135cm 以上の原草では着花はほとんど認められないが、茎長が短くなるほど原草中に着花茎が占める比率が高くなる傾向がある (図 1)。
2. 120cm 未満茎では、先枯長が長い(3cm 以上)茎に着花が多く、先枯長が短い(3cm 未満)茎では着花はほとんど認められない (図 1)。
3. よって、「夕風」原草は、はじめに原草長さによる選別を行い、次に 120cm 未満の原草を色彩選別機により先枯長 3cm を目安として選別を行うことで、着花茎を集約することができる (図 2)。
4. 集約された着花茎は、選り出しを行う際に取り除き、打ち出し用原草等として使用する。

普及上の留意点

1. 本試験における先枯長の長短判別は、いぐさ色粒径選別機による仮選別後に、目視により確認を行った結果である。
2. 栽培管理時に既存の先刈技術により着花茎数自体を減少させておくことが望ましい。
(平成 20 年 7 月 農業の新しい技術 No. 596 参照)

【具体的データ】

No. 606 (平成 25 年 5 月) 分類コード 05-07 熊本県農林水産部

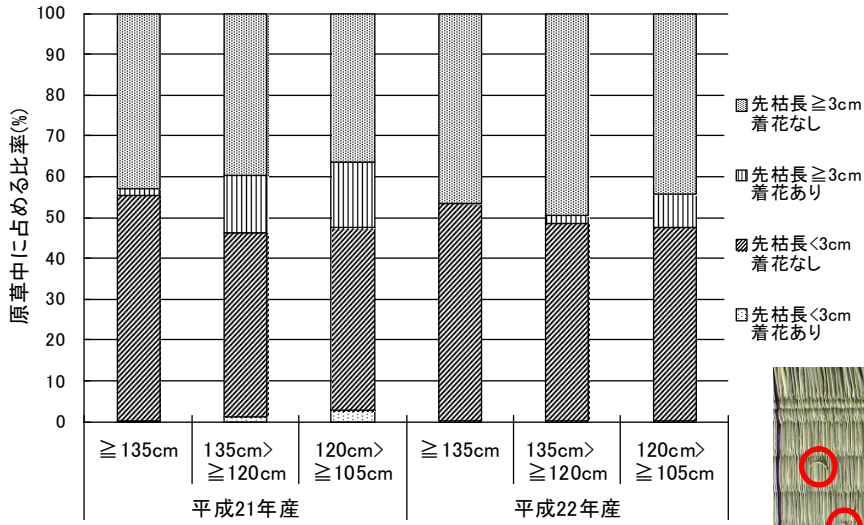


図 1. 「夕風」原草中の茎数の比率(茎長 105cm 以上原草)

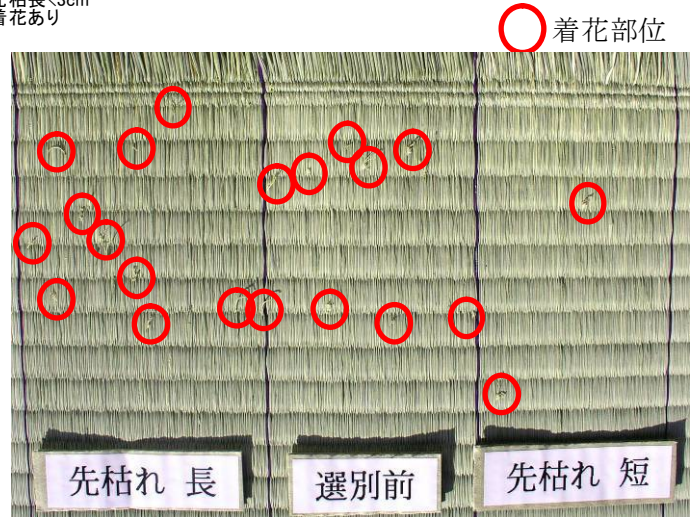


図 3. 「夕風」畳表の着花茎混入程度の例(105~120cm 原草、麻 3 種)

注) 写真中央: 色粒径選別機により選別を行わずに製織した畳表

写真左: 色粒径選別機により選別した後の先枯れの長い原草を用いた畳表

写真右: 色粒径選別機により選別した後の先枯れの短い原草を用いた畳表

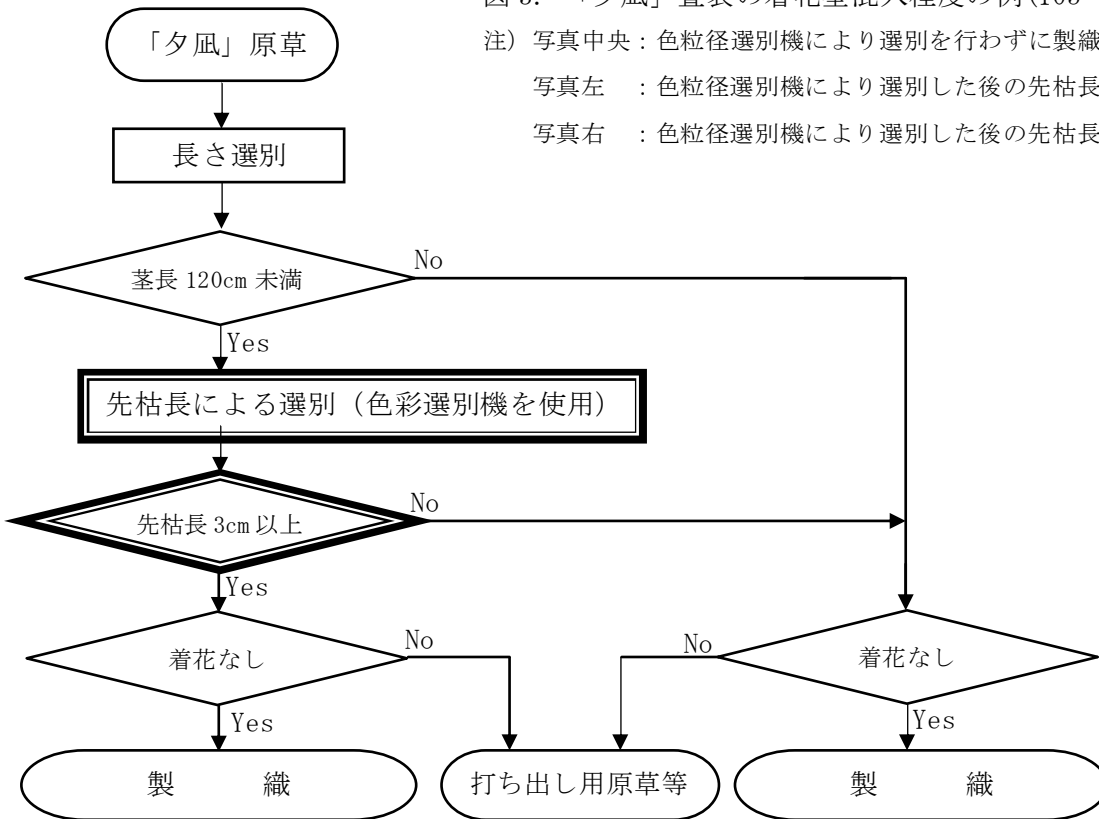


図 2. 「夕風」原草の着花茎選別フロー